

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

秩父御岳山ー両神山の観望台ー



夏の秩父御岳山(杉ノ峠から)

3月下旬の良く晴れた日、秩父御岳山（1081m）に登った。木曾御岳山の王滝口開山の祖、普寛上人が自分の故郷、秩父に開いた山と言われる。

秩父鉄道終点の三峰口駅から20分も歩くと御岳山登山口に着く。

登山口9時半出発、最初から雑木林の中の急な登り。30分程で明るい尾根上に飛び出すと傾斜が緩くなる。ここから眺める熊倉山はなかなか絵になる。次いで植生はスギ林に変わりヤセ尾根の急登になる。日差しの中、汗ビッショリで11時50分、御岳山頂に到着した。



山頂風景

いかめしいコマ犬を従えた山頂の祠が鉄骨セメント固めであることにいささか幻滅。しかしこの山頂から眺める両神山は、城砦のようにそびえ、ひときわ大きい。飛龍、笠取、甲武信などの奥秩父の山々もなかなか見応えあるが、この山頂から望む両神山の威圧感だけは他に比類ない。

日だまりと眺望に恵まれ、ゴキゲンの昼食休憩の後、12時半出発で、下りは落合集落に向かう。頂上直下、急な岩場下降が続くが、諸所



山頂から眺める両神山

にクサリやロープが垂らしてあり、初心者にも安心である。下りきったワラビ平と呼ばれる狭い鞍部から、尾根を離れて植林された急斜面の山腹をジグザグに下りて行く。下りに大汗をかい、13時半、やっと王滝沢の源頭に到達。後は、沢の中にルートを選んで右に左に渡り返しながら下る。

最後に、堰堤を5～6カ所乗り越して、きよめの滝を左に見て間もなく、御岳山の開祖、普寛上人を祀った普寛神社に出た。お詣りをして

いると、社務所に集まってお祭の準備を奉仕中のオバサン方に



普寛神社

呼びとめられた。丁度お茶の時間、お茶とお菓子の相伴にあずかり、すっかり話しこんでしまった。

国道140号に出たのが14時半。バス道を左に10分程歩くと、おなじみの村営大滝温泉「遊湯館」がある。例によって例のごとく風呂とビールで今日一日の締めと相成った。



遊湯館